

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
春　号
平成28年4月
Vol.10

特集

◆花びらが白色から桃色に変わる新品種「北野桜」記者会見
◆旧儀 北野天満宮御手洗祭の復興
◆天神さまと私「庶民の心の中に生き続ける」

学校法人 京都外国語大学理事長・総長
北野天満宮講社相談役
森田　嘉一

北野天満宮社報 春号 Vol.10
KITANO TENMANGU NEWS

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。今や天満宮・天神社は全国に約一万二千社と広がっています。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所 太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】

平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

〈表紙写真〉　満開の北野桜（きたのざくら）

社務所前の桜は樹齢120年以上の古木で、花びらが白色から桃色に変化する珍しい桜である。
北野を代表する桜として親しまれるよう「北野桜（きたのざくら）」と命名した。

御挨拶

熊本地震発生に関し心からお見舞い申し上げます



見頃の梅のもと、美しく整備された別離の庭ときれいどころのお点前

まず以て、この度の熊本地震並びに大分地方地震の被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一時でも早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、例年になく温暖な新年を迎え、境内は菅公ゆかりの約千五百本の梅が咲き誇り、馥郁たる梅の香りで包まれました。皆様にはご健勝の御事、お慶び申し上げます。

当宮は平成十五年にご就任戴きました北野天満宮講社千玄室会長のもと、これまで文化事業を始め、様々な諸事業を展開致して参りました。お陰様で天神信仰発祥の地として御神徳の発揚に愈々邁進し、史蹟御土居の整備も順調に進捗し、御土居の景観は一段と面目を一新致しました。特に昨秋の「御土居のもみじ苑」公開には、ＪＲ東海の秋のキャンペーン「そうだ京都、行こう。」のメイン会場として全国から予想以上の大勢の方々が参拝され、紅葉狩りをご堪能戴きました。これも永年に亘る会長様を始めとする崇敬者各位のご支援の賜と心より感謝申し上げます。

本年は昨年移築修復が完成致しました紅梅殿に引続き、別離の庭をさらに整備し、一連の完成を祝しまして、講社大祭に合わせ菅公ゆかりの旧儀「曲水の宴」の開催を予定致しております。また昨年初めて京都市主催の「京の七夕」に地域一帯となり、「北野紙屋川会場」として参加しましたが、本年より本格的に実施すべく、別離の庭に続く境内西側に、当宮の歴史ある旧儀「御手洗（みたらし）神事」を執り行う御手洗池等を構築する次第でございます。この御手洗祭の復興に向け、只今当宮の歴史・祭事を再考致している処であり、復興の暁には皆様のご参加を心よりお待ち致しております。

今後も平成三十九年斎行の千百二十五年半萬燈祭に向け、天満宮講社千玄室会長を中心として、史蹟御土居の整備と併せ境内全般の整備を進めていく予定でございます。

ご参拝の皆様には完成までの間、多々ご迷惑ご不便をおかけ致しますが、今後ともご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九



スペイン国王ファ・カルロス1世、ソフィア王妃と。2011年6月27日来学。

天神さまと私

「庶民の心の中に生き続ける」

学校法人 京都外国語大学理事長・総長
北野天満宮講社相談役
森田 嘉一



今年も、梅の花を愛した平安時代の文人・菅原道真公をまつる北野天満宮では、二月二十五日、恒例の「梅花祭」がとりおこなわれました。道真公の命日に合わせて営まれる伝統行事で、約九〇〇年の歴史を数えるといわれています。梅の香りが漂う境内では今年も野点が催され、花街・上七軒の芸舞妓らがお点前を披露、本殿では紅白の梅の小枝を神前に供え道真公の遺徳を偲びました。季節感を大切にする京都の人たちにとっては、初天神・終い天神とともに、多くの人たちが詣でるとても親しみがもてる縁日となっています。

「ここはどこの細道じゃ、天神さまの細道じゃ」天神さまの境内はずっと子供の頃の私の遊び場でした。戦前の事ですがチャンバラごっこ、兵隊ごっこにと明け暮れる毎日でした。春は梅や桜、秋はどんぐりに紅葉と、子どもの時からその空間は私たちのオアシスでもあり、そして最も親しみのある神様が住んでおられるところだったのです。東京で生まれ育った私の少年時代は、いくら庶民信仰の天神さまだといっても今のような合格祈願するような習慣はまだ少なく、戦前の天神さんはあくまでも子どもたちの格好の遊び場と化していたのです。そして時が経ち、まるで自然の流れのように導かれて、今度は私



ポルトガル首相来学

の娘、孫が「受験の神様」として天神さまのお世話になっています。

菅原道真公は、日本の歴史上特異な人物の一人だと思います。類い稀な詩人であり学者であって、右大臣まで昇ったという経歴からしてすごい人物です。そして急転直下、太宰府に追いやられたという運命はまた悲惨です。死後、怨霊となって藤原氏を苦しめ、やがて天に上って雷神となったといわれています。伝説まで起こした道真公は、一体どんな人物で、どんな仕事をしたのだろうか。歴史上どういう意義を持ったのであろうか。道真公についての研究は、古来より数多くなされて来ています。専門的な研究は多くの史家に委ねるとして、私は最も素朴な関心事に注目しています。

それは、天神の社は各地にあり、天神町という地名も多くの都市に存在しているという事実です。どうして天神さまは、われわれの生活にこのように深い関係を持っているのであろうか。

江戸時代、学問の神として、寺子屋を通じ、津々浦々にまで菅公崇拝が普及しました。明治・大正時代には、無実の罪におちいりながら君を怨まなかった忠臣の代表として、忠君愛国の教育において、菅公の事績が讃美されました。こうして庶民信仰が根づいて、長い間、天神さまは庶民の心の中に生き続けてきたのです。そして菅原道真公への親近感も育まれていったのだと思います。

昭和二十年、祖父の経営していた学校は東京の戦災で焼失した後、昭和二十二年、私の父母であります森田一郎・倭文子によって京都外国語大学は創立されました。終戦により国土・人心は荒廃し、生活も困窮し、国民は苦しみ呻いていました。教育もまた機能を停止し、すべて危機的な状況にあったのです。創立者夫妻は、これからの日本にとっては教育の再生が何よりも緊要、とりわけ平和国家のためには外国語教育がなくてはならないと考えたのです。平和を軍事面だけから捉えるのではなく、人間の営みを互いに理解することで世界の人々が共存できる社会をつくっていくことこそが平和に繋がる道と考え、湯川秀樹博士らと世界連邦を唱えて平和を希求する活動にも情熱を燃や



校舎全景

していったのです。創立者の、教育にかける高い理想と平和実現への真摯な実践、この信念と気概は時代を超えて私たちに語りかけています。

では、なぜ、父母は京都で外国語を始めたのか。それまで東京の専門学校（旧制）で数学を教えていた父が、そして教員をしていた母が、なぜ、京都で外国語の教育を手がけることになったのか。この大きな疑問、夢を支えたのは創立者二人の人間的責務と教育者としての戦争に対する良心からだったのです。そしてこの決意を後押しし勇気づけたのは、父が戦時中にも交流を深めていた京都の知人・友人たち、いわば父のかけがえのない人脈にほかならなかったのです。そんな人脈が活かせたのも、父が感謝の気持ちを常に持ってお付き合いしていたこと、そして、教育にかける情熱が人一倍強かったからだと思います。

以来、私たちはずっと世界を見つめてきました。「言語を通して世界の平和を」の建学の精神のもと、生まれ育った国の伝統や文化に愛着を抱きつつ、異なる背景を持つ人たちとも理解し溶け合っていこうという姿勢で、私たちは今もさまざまな外国語・外国文化と取り組んでいます。

そして明年の二〇一七年五月には学園創立七十周年を迎えます。新たな一歩を踏み出すために、敗戦の痛みと苦しみの中でも明るい明日のために創立者が見せた壮絶なエネルギー、教育への執念を、いま一度、肝に銘じ、前に進んでいきたいと思っています。学問の神様、教育の神様、菅原道真公の事績を心より讃美して――。

【略歴】森田嘉一（もりた よしかづ）
東京都出身。慶應義塾大学大学院法学研究科修了。大学では京都外国語大学図書館長、学長を経て理事長・総長となる。教育関係では京都府教育委員会委員長、文科省大学設置・学校法人審議会委員、文科省中央教育審議会 専門委員。国際関係では京都府ユネスコ協会連盟会長、在京都メキシコ合衆国名誉領事、在京都ニカラグア共和国名誉総領事他多数兼務。日本私立大学協会副会長、同協会関西支部長等に携わる。



白色から桃色に変わる社務所前の桜

新品種「北野桜」と命名 苗木増殖も成功

――記者会見で報道陣に披露

開花時は花びらが白色（写真上）で、見頃には桃色（表紙写真）に変化する北野桜



中村センター長・伊藤巫女・山本巫女・橘宮司

花びらが白色から桃色に変化していく桜として長年不思議がられてきた社務所前の桜は、どこにもない新品種である可能性が高いことがわかった。四月八日午後、社務所大広間で行われた住友林業（本社東京）との共同記者会見で明らかにされたもので、組織培養にも成功した。橘重十九宮司は「御祭神の菅原道真公をお慰めしようと植えられたものだと思うが、新品種であると聞いて大変感動した。色々名前を考えたが、結局どなたにでもわかるように北野桜と命名した。苗木の増殖にも成功しており、この北野桜を護り、後世に伝えていきたい」と、喜びを語った。

この桜の樹齢は、推定百二十年。毎年、ソメイヨシノが散り始めたころから咲き出す遅咲きで、花弁が白から次第に桃色に変化していくことから長年、参拝者から不思議がられてきた。近年、幹の下部が大きくえぐられ、樹勢も衰えてきたことから、御神木の梅「紅和魂梅」の組織培養による増殖成功で縁ができた住友林業にDNA鑑定による種の確定と、梅と同じように苗木の増殖を依頼していた。

新品種の可能性が高いことに至った理由として、住友林業のおよそ二百種に及ぶ桜のDNA遺伝子情報に合致せず、その他、形態観察などからも一致するものが存在しなかったという。調査に当たった住友林業の中村健太郎森林・緑化研究センター長は「二種類の桜の遺伝子とよく似ていたが、結局そのどちらでもなかった。新品種の可能性が非常に高い。私は二十年間、桜の研究をしているが、新品種を発見したのは、これが二例目で極めて珍しい」と述べられた。

当宮は今や京都市内でも屈指の梅の名所だが、平安時代、この一帯は「北野右近の馬場」と呼ばれ、桜狩が行われたほどの桜の名所として知られた場所。菅公は大宰府に配流される折、「櫻花ぬしをわすれぬものならば吹きこむ風にことづてはせよ」との歌も詠まれている。



開花した北野桜



組織培養によって成長した苗木



記者会見の様子

旧儀 北野天満宮 ―― 御手洗祭の復興



平安京イメージ

「彦星の行あひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」〈菅公御歌〉

彦星（ひこぼし）が織姫星（おりひめぼし）との出逢いを待って天の川にかけるという鵲（かささぎ）の橋、彦星でさえ一年に一度、妻である織姫星に逢えるというのに、どうか私にも貸して欲しい。それを渡って都に帰りたい。という京の都への切なる望郷の念にかられた御歌を大宰府の配所で詠まれた菅公は、その願いも空しく薨去されたのでした。

やがて、菅公の神霊は村上天皇の勅命により平安京の最も重要な聖地、乾の地「天門」に迎えられて北野社の社殿が建てられ、のち一條天皇より「北野天満天神」の神号を賜ったのであります。

平安京の国都の大内裏は申すまでもなく、現在の千本丸太町にあり、大宮御所の御用水は衣笠山（現在の金閣寺辺り）を源泉として北野天満宮東側（当時の西大宮川）を経て、天神様の神域で清められて宮中の御用水として用いられていたのでした。

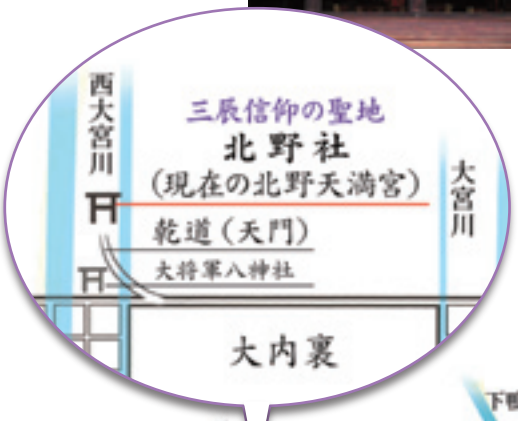
そこから誕生した平安京と北野天満宮に関係する三辰信仰（太陽・月・星に対する信仰）、宮中祭事五節句の一つ七夕祭、御手洗神事等については調査研究中ですが、当宮に残る室町時代の古文書・文献を中心に、当宮の伝統行事・御手洗神事を紹介致します。

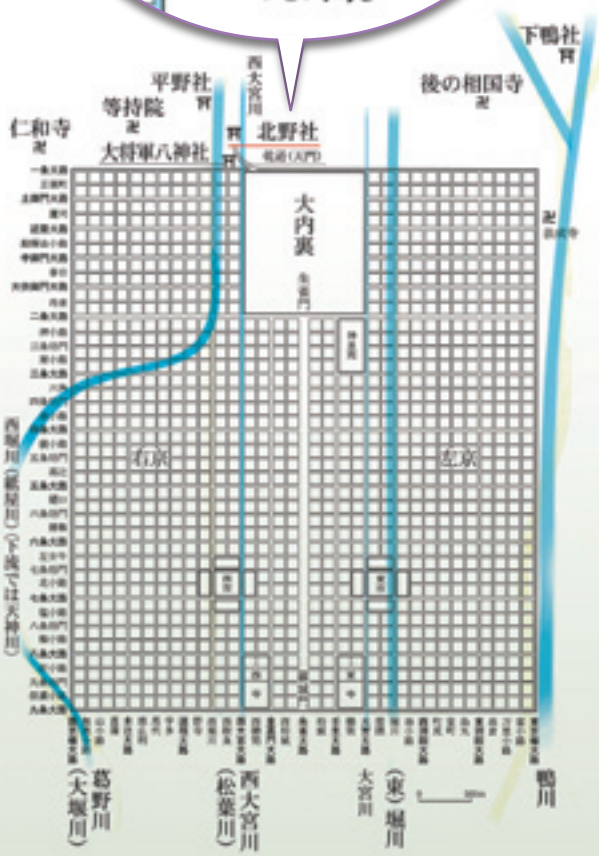
古記録に見る 室町時代以降の北野天満宮 御手洗祭（みたらしさい）

北野天満宮 権宮司 加藤 迪夫



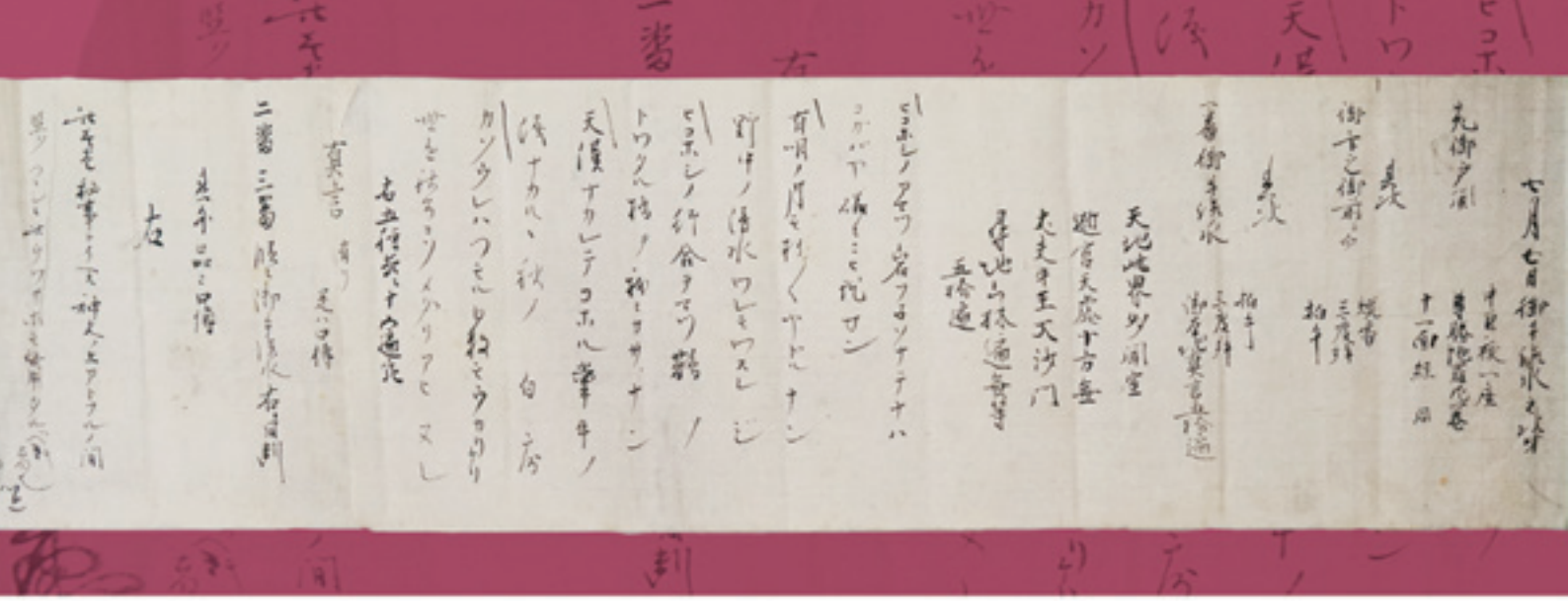






◆歴史ある重儀・御手洗祭

村上天皇の天暦元年（九四七）年、平安京の最も重要な北西（乾）の地「天門」に、菅原道真公の神霊を祀



る北野天満宮が創建された。当社の祭礼は北野祭と呼ばれ、村上天皇の時代の天暦年中（九四七―五七）より始められ、三年に一度「三年一請会（さんねんいっしょうえ）」と呼ばれる会式が執り行われたのである。神輿・神宝などの点検修造が勅願により行われ、公家による御輿長や駕輿丁らが神輿を舁く朝廷にとっても重要な祭礼であった。また大蔵省の役人が神宝持ちを務め、かつ神輿修理にあたっていたのであった。永延元年（九八七）、「北野天満天神」の託宣があり、一條天皇により北野祭は勅祭として執行され、年中行事として行われるようになった。こうして北野天満宮は朝廷の崇敬する国家鎮護の社との性格を帯びていったのである。その為当宮の年間の祭礼は数多くあるが、その多くが朝廷とも深く関わっており、特に菅公との所縁ある祭礼として「御手洗祭」が重要な神事として位置付けられている。

当宮の御手洗祭（みたらしさい）は、古来旧暦七月七日に行われる伝統ある朝廷官人にとっての重要な神事の一つであり、「北野の御手水（おちょうず）」、「七夕御手水（たなばたおちょうず）」と呼ばれていた伝統行事である。

平安時代、鎌倉時代と連綿と伝えられてきたと考えられるが、室町時代の当宮の古記録をみると、後花園天皇・嘉吉元年（一四四一）十月七日の社家日記に以下の記録が見受けられる。

「永享四年（一四三二）御手水事、寶壽院乗慶法眼可相傳之由、竹内殿ヨリ以御教書被仰出間、御手水乗慶可相傳之由、被仰下候、實祐参勤事者、松梅院重服之時候、既廿年餘候、…」と記されている。第六代将軍足利義教の時に、すでに二十年以上続いてきた記録であるが、この神事には別当松梅院が深く関わっていることが注目される。

中世、当宮は宮寺とも呼ばれ、比叡山延暦寺曼殊院門跡が別当として務めており、松梅院は公文所、室町幕府・足利家将軍御師職を務め、供僧職により神々や本尊仏に対し祭祀・祈禱が行われていたのである。その中でも「御手水神事」は足利将軍家にとって最も重要な神事の一つであったことが当宮の諸記録より窺われる。

明応二年（一四九三）七月五日に禁裏、後土御門天皇より御手水硯石が寄進されている。

七夕御手水神事奉仕者は必ず前日潔斎が行われ、当日は公方様（足利将軍）・政所・執行等一番の神事に続き、順に七番までの順位により年々斎行された。この神事は秘事（秘文「七月七日御手洗水之次第」）であり、社務奉行により厳重な警固のもと執行されたのである。

慶長十一年（一六〇六）七月七日の御手洗神事には、豊臣秀頼より神事料五十石の下行があって斎行されており、江戸時代に至り、公方様（徳川将軍）の重服等のある場合以外は続けられて来た重要な神事であった。



松風の御硯



御手洗神事ゆかりの御神宝

★季語　北野御手水（きたのみたらしみず）　初秋の季語

御手洗祭。京都北野天満宮の行事で、学問の神として尊崇された菅神の七夕神事である。昔は、松梅院主が内陣で御手水を献じたので、北野御手水の名がある。現在は、七月七日、道真遺愛の松風の硯、水指、角盥に梶の葉を添え、御手水が神前に献じられる。

★御手洗祭（みたらしまつり）『広辞苑』

京都の北野神社で七月七日に行う祭。神宝松風の硯と、清水を盛った角盥を添える。北野の御手水（おちょうず）。

◆旧儀御手洗祭

当日、内々陣に松風の御硯、金蒔絵の角盥（つのたらい）及び水指を供え、角盥の上に簀子を渡し、其の上に梶の葉二束（各七枚ずつ）を供えて行われる。梶の葉は当日菅公が御歌を詠まれる御料で、短冊の代わりとして、すこぶる墨付の良いものである。御神供には七夕の御節供に因んで、真桑瓜や素麺も供えられた。

七夕の日の御祭りは、世俗では七夕祭即ち乞巧奠と呼ばれ、天の川の左右の牽牛織姫二星の祭りで、文学手芸等の上達を願う御祭であるが、七月七日の節供の行事であり、更には御手洗いの料を供え、水を盛った水指と、受器たる角盥を内陣に供えるので、お清めの為の神事といえる。これが名称を御手洗祭、時に御手水祭とも称される由縁であろう。

太陰暦の七月七日は初秋の初めの時期で、夏の悪気節が終わり、新秋の清く快い気を迎える季である。宮中でも六月三十日に夏越の大祓が行われるが、この時期当宮では七月七日の節供の日、暑中の悪気を拂う行事として夏と秋の交替の御祭りが斎行されるのである。

祭典の中に、角盥の上で、梶の葉に水指の水をかける式があるが、梶の葉は御詠吟の短冊代わりであり、また其の葉の形は人形の形に譬えられるもので、梶の葉に水をかけるのは御手洗いの形を奉仕するものと見られる。即ち禊の儀式であり、御手洗神事は夏越の大祓の性格を有する重要な神事といえる。

北野の御手洗祭は夏越の大祓と、七夕節供の典儀と、菅公の文道の家で最も重んじる乞巧奠との三つの性格の習合した趣きある祭典であった。なお御祭りが済むと、菅家六家の十七、十八歳の年頃の公達が拝殿にて献策、口頭試験が行われ、之が無事終わるとその人に「秀才」の称号が与えられ


金蒔絵の角盥と梶の葉


金蒔絵の水指



通り抜けが行われる石の間



徳川家を初めとする御名家が奉納された数々の燈籠

たという。

古くより御手洗祭は重儀の祭典であり、前数日に亘る御神宝の虫干、内陣の大掃除があり、前日六日夜に参籠、御清め神事を奉仕し、七日神事奉行たる松梅院が御祭りに奉仕し行われた。

明治維新後、七夕祭も衰微して菅家の献策も無くなり、明治の中頃に中祭とされ終に恒例の小祭となったが、祭典は現在も連綿と引き継がれ厳粛に斎行されている。

★御手洗団子（みたらしだんご）

天満宮の東に上七軒と呼ばれる京都で一番古い花街がある。室町時代に北野天満宮の再建の際、残った用材で七軒の茶屋が建てられた。これが「上七軒」の由来。桃山時代に豊臣秀吉が北野で大茶の湯を催した折、七軒茶屋に休息され、御手洗団子を献上されたところ大いに賞賛された。その後、七軒町の御手洗団子出し店の特権は、諸方の社寺や祭典等に利用され、加茂の御手洗団子、祇園団子等となって行った。



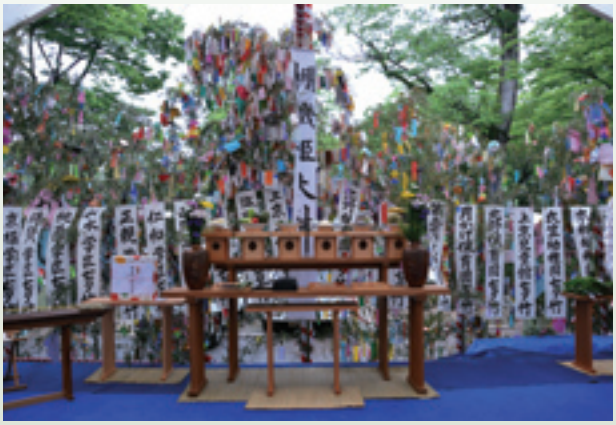
◆現在の御手洗祭（みたらしさい）・七夕祭（たなばたさい）神事

現在七月七日に斎行される当宮の御手洗祭・七夕祭（棚機祭）は、前日六日の御手洗祭前夕饌の斎行に続いて午前十時に御本殿で御手洗祭が斎行され、引続き午後一時すぎより中ノ森広場で七夕祭が執り行われている。

菅公の詠まれた詩に「彦星の 行あひをまつ かささぎの 渡せる橋を われにかさなむ」とあるように、当宮の七夕神事は「御手洗祭」と称され、古くより重要な御祭りとして斎行され今に伝えられている。

御手洗祭は、本殿内陣に菅公の御遺愛と伝わる「松風の硯」を始め、角盥（つのたらい）・水指（みずさし）し（いずれも手水器）・梶の葉（古くは短冊の代用品として使用）を七枚供え、神饌には季節の物として、茄子・胡瓜・真桑瓜等の夏野菜や、素麺・御手洗団子をお供えして祭典が斎行される。

この祭典は、御祭神に七夕の詩をお詠み戴く事、そして気候の不安定なこの時季に五穀（耕作物）の順調な生育と、人々の無病息災を祈願する節句行事の意味がある。



天棚機姫神をお迎えして祭典を斎行



神前には梶の葉や短冊を供える



史蹟御土居ライトアップ



境内夜間参拝



八月十二日(金)～八月十四日(日) 三日間のみ限定

平安京ゆかりの清め神事

御手洗川足付け燈明神事

午前九時～午後八時　場所／紅梅殿前 別離の庭

初公開

本殿石の間通り抜け神事

初公開

御神宝・御装束の展覧

午後四時～午後八時　場所／御本殿 石の間

平安京ゆかりの古式による祓い清め神事と御本殿の石の間通り抜け神事に併せ、国宝の殿内を御覧・祈願頂くとともに、歴史ある重儀・御手洗祭ゆかりの御神宝・御装束を虫干しに併せて初公開します。

八月一日(月)～八月三十一日(水)

特別展「宝刀展Ⅱ」開催

午前九時～午後四時　場所／宝物殿

宝物殿特別展 学問の神―驚きの『宝刀展Ⅱ』と題し、当宮に伝わる御神刀の数々を特別公開。重要文化財『鬼切丸』や『恒次』など、当宮所蔵の御神刀をおよそ四十振展示します。

八月一日(月)～八月十四日(日)

境内夜間参拝と史跡御土居のライトアップ

日没～午後九時　場所／境内・御土居もみじ苑

七夕笹で飾られた境内一円をライトアップの光が照らし幻想的な雰囲気を演出。七夕のタベを盛り上げます。

八月六日(土) 午前十時～

第二回北野天神泣き相撲　知恵を授かり、元気で明るい子供に

場所／神楽殿

文武両道の天神様に子供の健全な成育と健康安全を祈願する「泣き相撲」を開催します。

八月六日(土) 正午～

京炎 そでふれ！花風姿

場所／境内

私達は同志社女子大学の学生により構成された踊り手チーム「京炎 そでふれ！花風姿」です。精一杯演舞しますので、ぜひご覧ください。



京炎 そでふれ！花風姿

上七軒七夕盆踊り





七夕五色百人一首



祈願絵馬焼納式



学業大祭

北野天神泣き相撲



八月七日（日）午前十時～

七夕五色百人一首　北野天満宮大会

場所／社務所大広間

学問・文化芸能の神さま・菅公にあやかり伝統の百人一首大会を開催。参加の子供たちの健やかなる成育と技芸の上達、日本文化の発展を祈願します。

八月十日（水）午後五時～

上七軒七夕盆踊り

場所／上七軒歌舞練場横駐車場

北野天満宮のお膝元、花街・上七軒で毎年行われる盆踊りは、地域住民が参加しての盛大な夏の行事です。

八月十四日（日）午前十一時～

学業大祭　―お子様の学業成就・入試合格祈願―

場所／御本殿

夏休みで勉学に励むお子様たちに、国宝御本殿に昇殿頂き、入試合格・学業成就祈願と日々の健康を祈願します。

八月十四日（日）午後一時～

祈願絵馬焼納式　―天神さまに願いよ届け―

場所／楼門前中ノ森

ご奉納戴いた七夕祈祷木と祈願絵馬をお炊き上げ致します。皆様の願い事が天神さまに届くように祈念します。

八月十四日（日）午後一時～

京都文教大学よさこいサークル風竜舞伝

場所／楼門前中ノ森

主に京都府宇治市で活動しているサークルです。個性豊かなメンバーが皆様に笑顔をお届けいたします。

八月十四日（日）午後一時～

七夕和太鼓コンサート　神若会北野天神太鼓会

場所／楼門前中ノ森

北野天満宮の神社青年会として活動する「神若会北野天神太鼓会」による七夕特別コンサートを開催します。

※都合により、行事日程の変更等の可能性があります。あらかじめご了承ください。





京都文教大学　風竜舞伝

北野天神太鼓会





好天に恵まれ、初詣参拝者でにぎわう御本殿前

丙申初詣

穏やかな天候、梅もチラホラ咲く境内
「良い年に」「学力向上」「無病息災」
様々な願い込め、参拝者の列

申年の初詣は、昨年の大雪から一変し、三が日とも穏やかな天候に恵まれ、「今年こそよい年になりますように」「学力が向上し、入試に合格しますように」「家族が無病息災で過ごせますように」などなど様々な願い込めて祈る参拝者で連日大賑わいとなった。

三が日の京都市内の最高気温は、元日一〇・六度、二日一二・九度、三日一五・八度と、いずれも平年気温を上回り、とくに三日などは平年を六度以上も上回るぽかぽか陽気となった。この好天に誘われるようにして境内の梅のつぼみは一気に膨らみ、ちらほら咲きの梅もあり、開花した梅の花をカメラに収めながら参拝する人もあるという近年では珍しい初詣風景となった。とくに昨年の三が日が雪に見舞われただけに、「やっぱり、暖かい方がよろしおすなあ」と笑顔で挨拶を交わす参拝者の姿が、あちこちで見られた。

本殿前の中庭での十二月三十一日午後四時から斎行された年越しの大祓で新春を迎える神事は始まった。約四百人の参拝者が参列し、神職と共に大祓詞を奉唱し、この一年間の罪や穢れを祓った。同七時から本殿で除夜祭の斎行。同七時半から摂社火之御子社の神前において鑽火祭を斎行、古式によって浄火を鑽り出した。そして、その浄火は篝火に移され、同十時からは参拝者への火縄授与が行われた。



歳旦祭

新年最初の神事である歳旦祭は、元日午前七時から本殿において橘宮司以下神職によって厳かに斎行され、世界の平和・国家の隆盛・皇室と氏子崇敬者の弥栄を祈願した。

本殿前の中庭は連日、初詣参拝者で大賑わいとなり、神前では家族連れや若者らが拍手を打ち、それぞれの願いを込めて祈りを捧げていた。授与所は、勧学のお守りやお札、絵馬を授かる参拝者の行列ができ、牛舎や絵馬掛け所も志望校を書いて祈願する受験生らで賑わった。

参道及び境内一帯は多くの露店が並び、初詣参拝者の足を止めさせていた。



翔鸞消防分団による火縄授与のご奉仕



干支の大絵馬が掛かる楼門

北野の光

斎行された祭典・行事
〈一月～三月〉



思いのまま

「思いのまま」授与
今年も初詣参拝者に人気

一昨年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」が、昨年に引き続き元旦から授与され、初詣参拝者に変わらぬ人気を見せていた。

「思いのまま」は、神域にある約五十種・千五百本の梅の枝を開花前に剪定し、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除け玄米入りのひょうたんを取り付けたもので、厄除け・諸願成就などを祈る縁起物。水を入れた花瓶に挿しておけば、赤や白、色とりどりの梅の花が咲くので人気が高く、今年も授与を受ける参拝者の行列ができた。

献花展

池坊京都支部献花展



華道家元池坊京都支部（中路喜久子支部長）による新春奉納献花展が元旦から一月二日まで神楽殿で開かれた。

新春恒例の献花展で、立花・生花・自由花の形で生けられた六点の作品が並び、初詣参拝者に新春の香をふりまいた。

奉納狂言

新春奉納狂言

新春奉納狂言が一月三日午後一時から神楽殿で行われた。

猿楽会と茂山良暢氏の主催によるもので新春恒例。「末広かり」「太刀奪」「柑子」「土筆」「柿山伏」「福之神」の六番と、番外として茂山良暢氏が小舞「猿聟」を奉納した。この日は好天に恵まれて暖かく、多くの参拝者が足を止め、見入っていた。



糸人形

楼門に西陣糸人形
今年は上七軒の芸舞妓さん

楼門の内側左右に今年も西陣つくりもの人形「糸人形」が元旦から五日まで飾られ、初詣参拝者の目を楽しませた。

西陣織工業組合の依頼によって、毛利ゆき子西陣和装学院学長の構成・指導により毛利氏と有志が毎年テーマを変えて制作し、展示している。

今年は、北野天満宮と深いつながりがある「上七軒の芸舞妓さん」がテーマ。向かって右側が舞妓さん、左側が芸妓さんで、黒や白の生糸、紋紙などを使って作った艶やかな人形が参拝者の目をくぎ付けにしていた。



はじき初め

そろばんはじき初め



新春恒例の「そろばんはじき初め」が、一月五日午前十時から絵馬所で小学生ら約二百七十人が参加して行われた。

まず参加者全員が昇殿参拝して学問向上とそろばんの上達を祈願した。この後、絵馬所に移り、長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんなどを使ってはじき初めをした。

筆始祭

書道の神としても崇敬されている御祭神菅原道真公を偲び、一月二日午前九時から本殿で筆始祭を斎行し、書に親しむ人たちの技術向上を祈願するとともにこの日から「天満書」を始めることを神前に奉告した。



書道の上達願い「天満書」子どもら力強く筆ふるう

神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、初詣の幼稚園児や小・中学生らが力強く筆をふるい、作品を奉納した。



天満書

「天満書」は、当宮の神前で書き初めをし、書道の上達を祈る正月の恒例行事。三日間で千四百三十七点が奉納された。この間に家庭で書いた作品千七百四点も奉納され、「天満書」としての奉納作品は合わせて三千百四十一点（昨年二千九百六十一点）となった。

千四十一点が入選 入念な審査

「天満書」として奉納された全作品の展示が、一月二十日から三十日まで本殿前西廻廊と絵馬所で行われた。審査は二十日午前九時半から書家の日比野実・岡本藍石・竹内勢雲・山本悠雲の各先生と橘宮司によって入念に行われ、神前の部四百七十六点、家庭の部五百六十五点の合わせて千四十一点の入選作が決まった。



審査風景

入選者の授賞式

入選者の授賞式は一月三十日午後三時から本殿で、天満宮賞など特別賞に輝いた子どもとその家族らが参列して行われた。

授賞式に先立って奉告祭が斎行され、参列した子どもの代表が玉串を捧げ、それに合わせて全員が拝礼し、書道の上達を祈願した。

この後授賞式に移り、橘宮司が「天神さまは、書の〝三聖〟の一人と言われたほどの達人でした。一月二日の筆始祭では、本殿の内陣に御遺愛の硯などを供えて御遺徳を偲びましたが、そんな理由からみなさまにも書き初めをし、奉納していただきました。入賞おめでとう。本日の喜びを忘れることなく学問にスポーツに励んでください」と激励の言葉をおくり、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。



授賞式

入選者は次のみなさん。

【神前の部】

▽天満宮賞　髙橋壱樹（月かげ保育園年中）、玉村優衣（松ケ崎小一年）、西岡昇冴（第六向陽小二年）、梅名右郷（嵐山小三年）、新江田光希（安詳小四年）、中江咲絵（亀岡小五年）、古島寧々（御所南小六年）、初田沙穂（衣笠中一年）、神谷愛里朱（東輝中二年）、鵜川美優（東輝中三年）

▽京都新聞特別賞　山畠祐希（養父市立伊佐小五年）

▽京都新聞賞　伊藤紗衣（高倉小一年）、亀井都愛（楽只小二年）、冨田莉羽（朱雀第一小三年）、勝政光輝（梅小路小四年）、寺本葵（第六向陽小六年）、栗名悠喜（東城陽中一年）、佐藤友亮（東京学芸大附属小金井中二年）

▽鳩居堂賞　河瀬葉月（新沢幼稚園年中）、平井隆一（つつじケ丘小一年）、木村里彩（伏見板橋小二年）、狭間哲平（七条小三年）、安藤七海（鳳徳小四年）、川合春輝（鷹峯小五年）、藤井姫流（大宮小六年）、野田幸花（所沢中一年）

▽金賞　小笹莉子（西陣中央小一年）始め百七十六人

▽銀賞　内田実花（五軒小一年）始め二百七十二人

【家庭の部】

▽天満宮賞　北村誠矢（大徳寺保育園年長）、松並京佑（伏見住吉小一年）、伊藤良（ノートルダム学院小二年）、合志知優（京都教育大附属京都小・中学校三年）、伊東立登（普賢寺小四年）、松尾未咲（大宝東小五年）、川勝雅登（鷹峯小六年）、塩野愛奈（加茂川中一年）、坂井茉遊子（旭丘中二年）、岩見知紗（洛南中三年）

▽京都新聞賞　本田菜々美（大塚小一年）、木村里彩（伏見板橋小二年）、中江美柚（柊野小三年）、里見和哉（明徳小四年）、川合春輝（鷹峯小五年）、内藤心乃（安詳小六年）、御館由莉（洛南中一年）

▽鳩居堂賞　伊藤理音（大徳寺保育園年長）、岡心愛（山階南小一年）、井上大輔（浅野書道教室、二年）、赤名舞央（大宮小三年）、志賀蔵馬（詳徳小四年）、舩越望乃（大久保小五年）、平沼琹（大宮小六年）、馬渕楓（浅野書道教室、中学二年）

▽金賞　森島大晴（坂本教室、小学一年）始め二百九人

▽銀賞　田辺杏実（山階南小一年）始め三百三十一人

●審査員の講評

今年の干支である「申」を始め「希望」「成就」「合格」といった子どもの新年の願いを書いたものが多くみられた。全体的なレベルも高く、書道離れが言われる昨今にあって、力強い作品がたくさんあり、よかった。今、外国からの観光客が増えており、こうした「天満書」などは、海外の人たちに書道文化を紹介するとともに広げるものになると思う。

初天神

厳しい冷え込みの中 初天神、にぎわう



初天神の一月二十五日、京都市内は厳しい冷え込みとなったが、心配された雪は降らず、終日参拝者の足は途絶えることなくにぎわった。

この朝の京都の最低気温は氷点下四・一度（平年〇・七度）と今冬一番の冷え込みに見舞われた。しかし、朝方ちらついた雪も降り出さず、気温の上昇とともに参拝者の数が増えだし、いつも通りのにぎやかな初天神となった。

表参道にずらりと並んだ露店では、「安いよ」「まけとくよ」の威勢のよい掛け声もとび、例年より早く咲きだした梅の前では香りを楽しんだり、記念撮影する参拝者の姿も見られた。本殿前は、参拝者で終日混雑し、牛舎や絵馬掛け所周辺は、受験生らの行列ができた。



初雪祭



初雪祭

今冬初めてうっすら雪化粧となった一月二十日午前九時から、一の鳥居東側にある影向松（ようごうのまつ）の前で初雪祭を斎行した。

毎年三冬（立冬から立春前日）までの間に初雪が降ると、天神さまが影向松に降臨され、雪見をして歌を詠まれる、という伝説に基づく神事。

節分祭

無病息災を祈って節分祭 追儺狂言・日本舞踊奉納・豆まきと多彩な行事

立春前日の二月三日は節分。午前十時から本殿で節分祭が斎行された後、午後一時から神楽殿で伝統の北野追儺（ついな）狂言と日本舞踊が奉納され、締めくくりは威勢の良い豆まきで向こう一年間の災厄を祓った。

京都では、節分の日に「四方詣り」と称して節分ゆかりの四社寺を参詣する習わしが続いており、当宮は、その最後を担う重要な社として信仰されている。社頭では終日、災難除けのお札やお守、銀幣が特別授与された。

北野追儺狂言は、茂山千五郎社中によって奉納され、摂社福部社の御祭神福の神が、京の都を荒らす鬼を追い払うという筋書きで、「鬼は外！」と豆をまかれて鬼が退散すると、神楽殿を囲んだ参拝者から拍手がわいた。

この後、上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納があり、最後は芸舞妓・狂言師が一緒になって「福は内」と、参拝者に向かって盛大に福豆袋をまいた。



梅苑公開

昨年より二週間早く梅苑開苑 「宝刀展」人気も後押し、大賑わい

梅苑が昨年より二週間も早い一月二十三日から開苑した。境内の一番梅の開花が十二月三日と早く、その後も暖冬の影響を受けて次々咲き出し、梅苑開苑も大幅に早まった。二月中旬には見ごろを迎え、梅苑や境内は梅の香が漂い、連日参拝者で大賑わいを見せた。とくに今年は、宝物殿で特別公開中の「宝刀展」が、大変な人気を呼んでおり、梅苑・宝物殿拝観の共通割り引き券もあって〝刀剣女子〟と見られる若い女性の入苑者が数多く見られた。











講社の隆盛を祈り 梅風祭斎行

崇敬者団体梅風講社（小石原満講社長）の祭典である梅風祭が、三月二十五日午後三時半から本殿で斎行された。

約五十人が参列し、白衣・緋袴姿の八乙女が鈴舞を優雅に奉納した後、小石原講社長らが玉串を捧げて梅風講社の更なる隆盛と講社員の無病息災を祈願した。

鈴舞を奉納した八乙女は下記のみなさん。



梅風祭



前列左より　青山璃南・青山愛実・井鼻悠月・田子夢乃・田村みその・馬場碧惟・北村柊奈・北村涼夏

梅花祭



神職、冠に菜の花をつけ梅花祭を斎行
咲き誇る梅花の下、「野点大茶湯」は長蛇の列

こよなく梅の花を愛された菅公の祥月命日に当たる梅花祭が、二月二十五日午前十時から本殿で厳かに斎行され、御遺徳を偲んだ。

神前には、当宮神人の末裔で組織される七保会の会員が調製した大小二個の台に蒸した米を盛った「大飯」「小飯」と呼ばれる「梅花御供」や、玄米を入れた紙の容器に紅白の梅の小枝を挿した「紙立」と呼ばれる二種の特殊神饌を奉饌して斎行された。

この梅花祭、古くは御神霊を宥めるとして、菜種の花を供え「菜種御供」と称していた経緯から神職は冠に菜の花をつけて奉仕に当たり、今年も皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所長が参向され、御拝礼された。

三光門前の西広場では豊臣秀吉公の「北野大茶湯」にちなむ恒例の「梅花祭野点大茶湯」が行われ、参拝者は上七軒歌舞会の芸舞妓さんの優雅なお点前を楽しみ、順番を待つ長蛇の列ができた。

咲き誇る五十種・約千五百本の梅の花はちょうど見ごろ。本殿前や多くの露店が並ぶ表参道周辺は、終日参拝者で大賑わいを見せた。





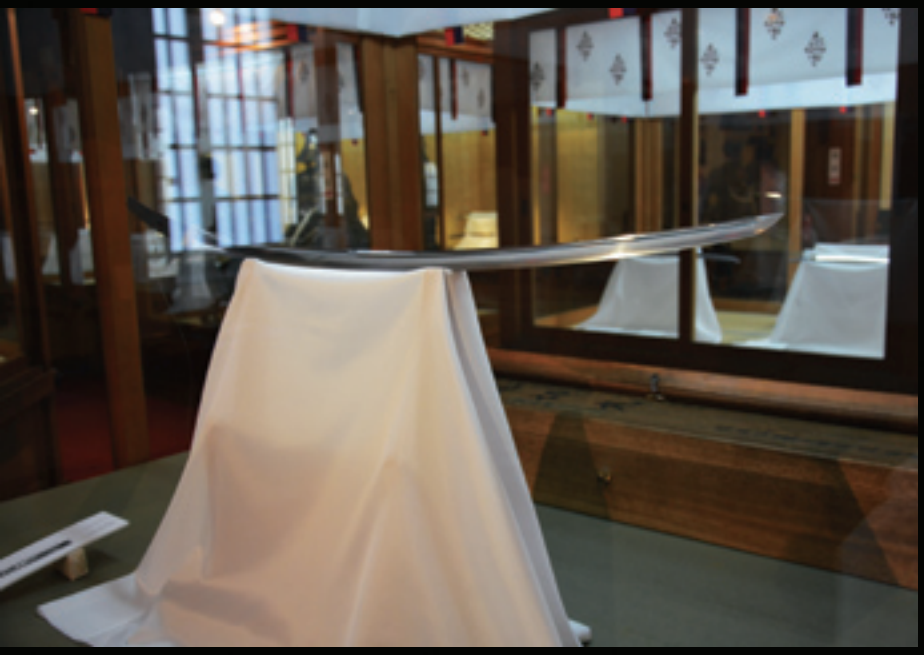
梅花祭献句

平成二十八年二月二十五日
宮司　橘　重十九選

「梅花祭野点大茶湯」でお点前の奉仕をした上七軒歌舞会の芸舞妓さんらが祭について一句つくり、献句した。橘宮司が審査し、天・地・人・佳作を選んだ。

天　ゆく人をあに忘るまじ梅の木よ　尚そめ
地　こぞの春今年も茶席笑みかわし　照　代
人　初点前舞妓の袖に春光る　梅　嘉
佳　梅ヶ枝に鳴けども未だとけぬ雪　市多佳
佳　指先に春の訪れ感じとり　里の助
佳　梅が枝に白玉とまるつぼみかな　尚　鈴
佳　春近し歌詠鳥の初音かな　市　知
佳　八棟のつづく社殿や梅まつり　勝　音
梅が香に誘われ詣る天神さん　梅はる
君がため惜しまず咲けよ寒紅梅　市多佳
梅の花におい香るる初野点　尚　絹
菅公牛といっしょに愛でる梅　尚　絹
冬霧の耐えてぞ宮に梅の香や　梅　嘉
まんまくに花のかんばせこぼれにえ　尚そめ
極寒も梅につゝまれ八十路生き　照　代
見あぐれば春告ぐ花の笑優し　梅　葉
香り立つ古木の梅の気高さや　勝　也
菅公へ捧ぐ一碗香り立つ　梅ちえ
老梅の幹の根元に蕾出づ　勝　奈
梅見れば心おちつく春風に　尚あい
うぐいすの訪れ待つる紅つぼみ　市　桃
梅の花我一番と咲き誇る　市こま
青空に春を呼ぼうと梅咲きぬ　市こま
寒梅のつぼみの先に春宿る　市こま
極寒も永遠に香るや梅花祭　梅ぎく
咲きそう梅に鶯声そえて　梅ぎく
花と香を春の嵐ぞ吹きおくる　梅智賀
夜の梅上七軒ににほいたち　梅智賀

当宮所蔵の名刀三十五振が一堂に
宝物殿で特別公開「宝刀展」を開催
―〝刀剣女子〟ブームを反映し、女性多数拝観―



太刀 銘安綱 号鬼切丸（別名 髭切）重要文化財

当宮に奉納された数多くの刀剣類から三十五振の名刀を選び、一月二十三日から三月三十一日まで宝物殿で特別展『宝刀展』を開催した。オンラインゲーム「刀剣乱舞」の影響もあり、いま空前の〝刀剣女子〟（刀剣ファンの女性）ブームといわれる中、拝観者の七～八割が若い女性という宝物殿ではかつてない珍しい特別公開となった。

菅公は、学問の神・文芸の神として崇敬されている一方、戦国時代には武運長久を願う大名・武将らの信仰も篤く、多くの刀剣類が奉納されている。千百年大萬燈祭（平成十四年斎行）に当たっての調査でおよそ八十振の収蔵が確認され、毎年何振かの修理を行ってきた。今回は、そのうち修理を終えた三十五振（うち重文五振）を一堂に公開した。

最も古く有名なものは「鬼切丸（髭切）」の号を持つ平安後期の太刀（安綱銘、重文）。付属の『鬼切丸伝来記写』によると、源満仲が長男の頼光に与えて以後源氏の家系へ代々相伝されたといわれ、当宮には明治十三年に最上家から奉納された。「鬼切丸」の号は、頼光がこれを用いて酒呑童子を退治したとの伝説による。

また、豊臣秀頼



若い女性が多く拝観



太刀　銘　奉納北野天満宮宝前
昭和二年二月侯爵前田利為
大阪住人月山貞勝謹作（花押）
付　金梨子地鶴文螺鈿松梅文
蒔絵飾太刀拵
昭和時代（一九二七）

公が慶長十二年（一六〇七）、社殿造営に際し奉納した太刀（國広銘、重文）や、加賀前田家が五十年ごとの大萬燈祭に奉納した恒次銘（鎌倉）、備州長船師光銘（室町）、助守銘（鎌倉）＝いずれも重文＝などの名品がずらり並んだ。このうち秀頼公奉納の太刀については、それを記録した文書が残っていないだけに茎に刻んだ慶長十二年の年号や「北野天満天神豊臣秀頼公御造営之時」の銘は、極めて貴重なものといえる。



太刀 恒次（重要文化財）

重文以外でも鎌倉から明治にかけての太刀・刀・脇差・薙刀・短刀などの名品がそろい、中には渡唐天神や梅鉢紋が刻まれ、当宮へ奉納を目的として造られたことが一目でわかる品もある。

宝刀展の監修に当たった京都国立博物館名誉館員の稲田和彦氏は「京都の著名神社には、どこも幾振かの刀を所蔵しているが、北野天満宮の所蔵数は、ずば抜けて多いだけではなく質も高く、最初に調査した時は正直なところ天満宮になぜ……と思うほど驚いた。本殿の内陣にご神刀として誰の目にも触れることなく長年置かれたままの名刀もあり、宝刀展の開催の意義は大変大きい」と、話されている。



大人気の鬼切丸朱印帳

ところで、この宝刀展のことはネット上でも評判となり、期間中、〝刀剣女子〟の来訪で大賑わいとなり、開催を記念して「鬼切丸」の名を焼印したオリジナル朱印帳の授与を行ったが、これも連日人気を呼んだ。



太刀 國広（重要文化財）





鋒両刃造りの直刀。この形状は皇室御物で平家重代の宝刀「小烏丸（こがらすまる）」と造込が似ているところから小烏丸造りと呼んでいる。鞘は金梨子地鶺文螺鈿蒔絵、各金物は金銅忍冬唐草文透し、真珠・珊瑚・水晶・孔雀石を嵌入。

刀身の作者貞勝は初代月山貞一の長男で大阪槍屋町に居住し、昭和十八年十二月二十四日に七十四歳で没した。昭和二年、千二十五年大祭典に前田利為氏より奉納されたものである。

平緒（ひらお）は西陣織で束帯の時に佩用する儀杖（ぎじょう）の太刀の幅広平打の組緒。菱向い鳳凰・松梅文、佩緒（はきお）は白組紐。

北野天満宮のこれからの祭典・行事〈四月〜六月〉



四月十四日〜十七日
文子天満宮祭

「文子さん」「文子祭」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭。四月十四日（木）から十七日（日）まで四日間にわたり斎行する。





五月上旬〜六月下旬
修学旅行参拝

中学生を中心とする修学旅行中の昇殿参拝。五月上旬から六月下旬にかけて一番のピークを迎える。





四月二十日
明祭

菅公が薨去されてから二十年後、冤罪が晴れた延長元年（九二三）四月二十日にあたるこの日、その喜びを神前に奉告する祭典を執行する。



六月一日
火之御子社例祭

「雷除大祭」の愛称で親しまれる摂社火之御子社例祭。六月一日午前四時から斎行。祭典後、特別授与品として雷除お守りやお札を授与するほか、参道には露店が出店し終日賑わう。



六月九日
宮渡祭

菅公が平安京の北西（乾）の北野の地に御鎮座された天暦元年（九四七）六月九日に当たるこの日、御本殿にて祭典を執り行う。



五月十一日
献酒祭

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、神前に新酒を供え、よい酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。





六月二十五日
御誕辰祭・大茅の輪くぐり

六月二十五日は菅公の誕生日に当たり御誕辰祭を斎行。
楼門では恒例の「大茅の輪くぐり」を行う。





六月十日
青柏祭

古代より柏の葉は、祭事に用いる神聖なものであった。当宮ではこの日に柏の葉に御飯を包み、神前に供え、日々の神恩に感謝し、季節の変わり目の神事として無病息災を祈願する。



六月中旬
梅の実ちぎり

正月の縁起物として新年の祝膳に欠かす事の出来ない「大福梅」の梅の実摘み取りを当宮神職・巫女・職員ら並びに氏子崇敬者の奉仕により、六月中旬から約一週間がかりで行う。



六月三十日
夏越の大祓

日常無意識のうちに身につけた罪や穢れは、古くより六月と十二月の晦日に斎行する大祓式で祓い清められてきた。特に六月の大祓は、「夏越の大祓」と称し、本殿前中庭にて斎行する。

第九回

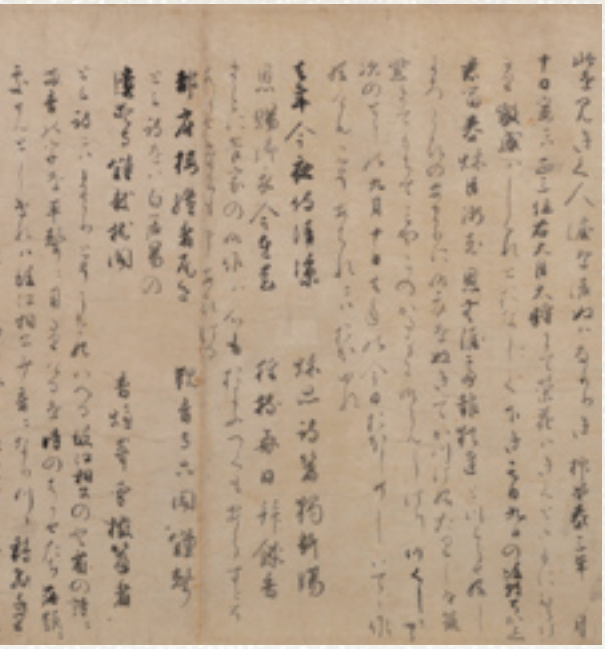
「国宝　北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学名誉教授　竹居 明男

道真公、大宰府の配所にて、恩賜の御衣を拝して悲歎にくれる。
―「恩賜の御衣」の段―

図版の通り、詞書二紙・画面二紙にわたる第四巻第三段は、承久本北野天神縁起絵巻全巻の中でも、おそらく最も有名な場面の一つであろう。

詞書によれば、左遷の詔によって運命が急変する前年の昌泰三年（九〇〇）九月十日のこと。その日は重陽の宴の後朝にて、右大臣に右大将を兼ねた栄職の身の道真公が詠んだ詩（『菅家後集』所収の「九日の後朝、同じく秋思を賦す、制に応へまつる」の一部を引用する）に対し、叡感のあまりに醍醐天皇が衣を脱がれて自ら公に「被け給」わった。



公は、その御衣を「京の形見」として筑紫の配所にたずさえて来たのであったが、配所生活一年目の延喜元年（九〇一）の九月十日、ちょうど一年前の「栄花」を思い起こしながら

去にし年の今夜 清涼に侍りき
秋の思ひの詩篇 独り腸を断つ
恩賜の御衣は今此に在り
捧げ持ちて日毎に余香を拝す

と詠まれたのは（『後集』所収「九月十日」）まことに「哀れ」としか言いようがなかった。また同じく配所での「都府の楼には纔に瓦の色を看る、観音寺にはただ鐘の声をのみ聞く」（『後集』所収「門を出でず」の一部）という詩は、かの白楽天の詩「遺愛寺の鐘」云々にも勝るものだと評された。

以上の詞書に対応する画面は、大宰府の配所の蓬屋にて、都から持参した恩賜の御衣を前に、涙にくれる道真公の姿を中心に描く。

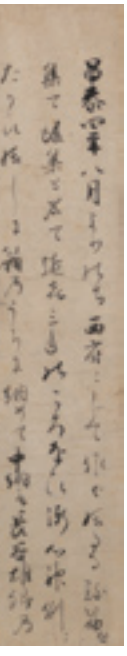
人の住まいとも思えぬ荒れ果てたあばら家の中、白い狩衣、緑地唐草文の指貫をはくのが道真公で、目の前には、恩賜の御衣を納めた、菊花紋を散らした行李が据えられている。

顔に袖を押し当てる公の姿に、建物の内外の近侍する人びとも歎きを禁じ得ない様子であるが、加えて忍草や蓬が生い茂る軒端や周囲を覆い尽くすばかりの野草や樹木が目立っている。薄や蔦かずらと、紅葉する楓の朱色との対比の中、可憐な菊も群生し、それらが相まって秋色が深まりつつある季節をうかがわせるとともに、公の歎きを一層増幅しているかのようである。情趣豊かな、こうした圧倒的な自然描写は、後続する天神縁起諸本の同場面には見られない大きな特徴と言えよう。

なお、本段の詞書の後半には、「後江相公」こと大江朝綱（八八六～九五七）の登省（＝文章生になるための試験）の際のエピソードが記されている。

すなわち、朝綱の答案の詩に博士たちが難癖をつけて落第させようとした時に、朝綱が公の「御作」を詠じ、かつまた「菅丞相の仰せられ置きし事をも」聞いておりますと述べたことを、醍醐天皇が聞き及んで「諸博士の才智如何なりとも、菅丞相におよぶまじ」とて及第すべき由の勅宣を出されたというものである。

朝綱の登省は、史実としては延喜十一年（九一一）のことで、厳密には公没後のこととなるが、本絵巻では、これに対応する画面は描かれていない。



道真公、謫居生活中の作品を『菅家後集』としてとりまとめ、都の紀長谷雄に送る。
――「送後集長谷雄」の段――



「恩賜の御衣」の段

前段と同じく詞書二紙・画面二紙からなる第四段は、昌泰四年（九〇一）八月以後（先行する建久本などには「昌泰三年八月」と見え、『菅家後集』の巻頭の詩は、その時期の作品である）、主に大宰府にて詠じた詩篇を集めて『後集（＝『菅家後集』）』と名付け、延喜三年（九〇三）の頃（建久本は同年の「正月頃」とする）、次第に心身に異変を感じるなか、箱に納めて都の旧友紀長谷雄（きのはせお）のもとに送り届けたという内容である。

紀長谷雄（八四五～九一二）は、はじめ都良香に学んだが、のち道真に入門して文章博士・大学頭などを歴任。後に従三位中納言に至った。家集『紀家集』は断簡が残るのみだが、他にも多数の詩文を残しており、学閥間の抗争が激しかった当時の文人社会の中で、道真公とは真の詩人として相許す間柄であった。

詞書は、『後集』送付の経過を簡潔に述べた後に続けて、これを開き見た長谷雄が、「天を仰ぎ地に伏して」歎き悲しむとともに、

> 卿相の位に居らずといへども、花月の遊びを投げ棄て給はず。凡そ其の文章多く人口にあり。後代の文章を会する者、菅家を称せざるは莫し。

と述べて、賛嘆やまなかったと記している。

詞書は、さらに続けて、「愚かなる身にも哀れに聞こゆるは」として、「九月十三夜の皓月（こうげつ）、心澄ませ給ひける時、作らせ給ひたる」として『後集』の「秋夜」の第三句以下を引用して閉じられる。

以上の詞書に対応する画面は、都の紀長谷雄邸において、大宰府の配所から届いた『後集』を前に、友を思って悲嘆にくれる長谷雄の姿を描く。長谷雄は祈るかのように合掌し、左右にひかえる二人の公卿も、畳に打ち伏したりなどして歎きをともにしている。庭上にも数人の人物が描かれ、いずれもが沈痛の表情をうかべているようである。庭中の今しも咲き誇る梅の姿が、かえって悲歎の思いを誘うかのようで痛々しい。やや地味ながら、前段とはまた別の愁歎場が繰り広げられていると言えよう。

以上をもって第四巻が終わる。



「送後集長谷雄」の段

献茶祭保存会だより

平成二十八年 献茶祭保存会役員会・初寄り

献茶祭保存会役員並びに平成二十八年明月舎月釜奉仕者が参会し、恒例の献茶祭保存会初寄りを一月七日午前十一時より明月舎にて催した。初寄りに先立ち、午前十時半から社務所にて役員会を開催し、次年度予算案に関する件等の議事が行われた。

初寄りでは、宮司挨拶に続き月釜奉仕者に対し委託書を交付、本年の月釜奉仕をお願いした。





ボーイスカウト第八十五団だより

●ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊合同で伊勢の神宮参拝



ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊合同による恒例の神宮参拝を一月三十一日に行った。穏やかな天候に恵まれ、大勢の参拝者がお参りする中、まずは外宮を参拝し、続いて内宮を参拝した。おかげ横丁では、お土産探しや伊勢名物などを楽しみ、有意義な時間を過ごした。

神若会だより

●京都ライトハウスで天神太鼓披露

三月十一日、視覚障害者総合福祉施設・京都ライトハウスで開かれた「第二回福祉のつどい」に北野天神太鼓会が出演し、「勇駒」など六曲を披露、参加者およそ二百名の耳を楽しませました。

今回の「福祉のつどい」は、東日本大震災から五年の節目にあたる三月十一日の開催であることから復興の願いを込めて開催するもので、地域の平和と安全を祈願して演奏を行った。

●平成二十七年度神若会総会

北野天満宮の若手崇敬団体である神若会（柴田晃一郎会長）の総会が、三月二十七日午後六時より社務所大広間で総勢八十名が参加し盛大に開かれた。

総会に先立ち、全員が御本殿に昇殿のうえ正式参拝を行い、柴田会長が玉串を捧げた。参拝後、橘宮司より新年度に向けて更なる活動に期待する旨の挨拶があり、懇親会では会員相互のコミュニケーションが深められた。



祭事暦（四月一日～六月三十日）

○四月

一日　午前十時　月首祭
三日　午前九時半　神武天皇二千六百年式年祭遥拝式
十日　午前十時　賣茶本流献茶式　煎茶賣茶本流家元渡邊琢祥宗匠奉仕
十四日　午後二時　末社 文子天満宮神幸祭
十五日　午前十時　月次祭
十六日　午前十時　摂社 地主社例祭
十七日　午後四時　末社 文子天満宮還幸祭
二十日　午前十時　明祭（中祭式）
二十五日　午前九時　月次祭
午後四時　夕神饌
二十九日　午前十時　昭和祭

○五月

一日　午前十時　月首祭
五日　午前十時　児童成育祈願祭
十一日　午前十一時　献酒祭
十五日　午前十時　月次祭
二十五日　午前九時　月次祭
午後四時　夕神饌

○六月

一日　午前四時　摂社 火之御子社例祭（雷除大祭）
午前九時　月首祭
九日　午前十時　宮渡祭（中祭式）
十日　午前十時　青柏祭
十二日　午前十時　二條流献茶式　煎茶道二條流家元二條雅荘宗匠奉仕
十五日　午前十時　月次祭
十七日　午前十時　末社 竈社例祭
二十五日　午前九時　御誕辰祭（中祭式）
午後四時　夕神饌
三十日　午後四時　夏越の大祓・茅の輪神事

講社大祭は十一月三日に
「紅梅殿の庭では曲水の宴も」
天満宮講社理事会、千会長ご挨拶



北野天満宮講社（会長・千玄室裏千家大宗匠）の平成二十八年度理事会が四月六日午前十一時半から社務所大広間に約百二十人が出席して開催された。

物故関係者に対し黙祷を捧げた後、橘重十九宮司が「紅梅殿の移築が成り、今後は庭や川の整備をし、秋には本当の意味での柿落しが出来るよう千会長様にお願いして進めて頂いています」と挨拶した。

続いて千会長が「例年七月の講社大祭は、今年は十一月三日の斎行とし、歴史的にも由緒ある曲水の宴を行うことで計画が進んでいる。また、史跡御土居の整備・保存は、今後も国庫補助を頂き、皆さま方の御支援のもと進めて参ります」と、挨拶された。

新役員の紹介の後、議事に入り、平成二十七年度の事業報告と決算報告、講社大祭を十一月三日（雨天の場合は四日）に斎行し、紅梅殿の前庭で曲水の宴を催すことなどを盛り込んだ平成二十八年度の事業計画案と予算案を了承した。

なお、講社大祭の後、曲水の宴を行うのは、宇多天皇の寛平二年（八九〇）、宮中で催された曲水の宴において菅原道真公が、歌を詠まれた縁によるもので、古儀による宴を再現して御神霊をお慰めする。

正式参拝された皆様（敬称略）（一月～三月）

一月　七日（木）京都学園大学
一月　十四日（木）フォーラム「新・地球学の世紀」
一月　十六日（土）北野天神花傘会
一月　十七日（日）津田天満神社　申友会
一月　十七日（日）野上八幡宮
一月二十一日（木）関西医科大学
一月二十二日（金）一般社団法人 徳島経済同友会
二月　四日（木）ＮＨＫ文化センター京都教室「庭師と歩く京の名園」
二月　六日（土）楠村天満宮
二月　七日（日）関西医科大学耳鼻咽喉科学教室
二月　十三日（土）上七軒天神講
二月二十四日（水）白山神社氏子総代
二月二十五日（木）ＮＨＫ文化センター梅田校「古都深発見」
三月　九日（水）京都ＳＫＹシニア大学
三月　十一日（金）大阪倶楽部　美術茶話会
三月　十二日（土）京都ホテルオークラ「季節の旅」
三月　十三日（日）京都連歌の会
三月　十六日（水）全国天満宮梅風会京都府支部役員会
三月二十一日（月）京都プレミアム旅プラン
三月二十三日（水）忠節天神神社
三月二十四日（木）北野神社
三月二十七日（日）北野天満宮神若会
三月二十八日（月）群馬県神社庁 館林邑楽神社総代会

挙式された皆様（一月～三月）

一月　十八日（月）上池　徹・依里子　ご夫妻
二月　四日（木）小嶋　正之・悠香　ご夫妻
二月　十二日（金）用害　崇生・よしみ　ご夫妻
二月　十二日（金）藤原　稔久・祐　ご夫妻
二月　十三日（土）西田　将平・菜々子　ご夫妻
二月　十四日（日）南村　雄太・眞紀　ご夫妻
二月二十六日（金）中川　泰人・明夏　ご夫妻
二月二十七日（土）二宮　翔・裕世　ご夫妻
二月二十七日（土）河合　謙佑・由紀　ご夫妻
三月　一日（火）元島　淳一郎・瞳　ご夫妻
三月　五日（土）岩崎　勇志・可奈子　ご夫妻
三月　五日（土）早川　雄・翠　ご夫妻
三月　六日（日）國重　泰理・由夏　ご夫妻
三月　七日（月）小澤　智裕・奈美紀　ご夫妻
三月　十二日（土）横田　聡・真理　ご夫妻
三月　十三日（日）伊藤　公一・裕美　ご夫妻
三月　十三日（日）島田　延享・小百合　ご夫妻
三月　十八日（金）田川　京太朗・芽維　ご夫妻
三月　十九日（土）上部　幸太・瞳　ご夫妻
三月　二十日（日）山本　祐之・奈緒美　ご夫妻
三月二十七日（日）稲田　祐貴・和葉　ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

月釜献茶（四月一日～七月三十一日）

○四月
一日　献茶祭保存会　多門　宗粒（明月舎）
十日　梅交会　濱内　宗厚（松向軒）
十五日　献茶祭保存会　中田　宗俊（明月舎）
松向軒保存会　西川　宗青（松向軒）
二十四日　紫芳会　今村　宗幸（松向軒）
○五月
一日　献茶祭保存会　松山　宗泉（明月舎）
八日　梅交会　村岸　宗紫（松向軒）
十五日　献茶祭保存会　長谷川宗葉（明月舎）
松向軒保存会　杉山　宗喜（松向軒）
二十二日　紫芳会　井田　宗美（松向軒）
○六月
一日　献茶祭保存会　藤原　宗順（明月舎）
十二日　梅交会　松田　宗美（松向軒）
十五日　献茶祭保存会　官和会（明月舎）
松向軒保存会　土本　宗丘（松向軒）
二十六日　紫芳会　土屋　宗昭（松向軒）
○七月
一日　献茶祭保存会　大塚　宗香（明月舎）
十日　梅交会　合同茶会（松向軒）
十五日　献茶祭保存会　藪内燕庵社中（明月舎）
松向軒保存会　休会（松向軒）
二十四日　紫芳会　紫芳会（松向軒）

まちの安心安全を願い、境内や上七軒通を行進

消防・区役所・警察が連携し三百人が参加
「毎月二十五日、上京区の点検日」総会決定



パレード開会セレモニー（一の鳥居前）

「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」上京区推進協議会（上林研二会長）の総会が三月一日午前十時から社務所大広間に約四十人が出席して開かれ「毎月二十五日を上京区の安心安全点検日にする」ことなどを決めた。

この後、上京消防署・上京区役所・上京警察署の三者が一体となった啓発パレードの出発式が一の鳥居前で行われた。橘重十九宮司も「戦後七十年、日本は自由・平等・平和な国となったが、一方で個人主義を履き違えて行動する人も出ている。神社は地域の人々が集う場であり、地域社会の絆が強くなってほしい」と挨拶した。

パレードは地域住民・同志社大の学生・上七軒の芸舞妓らも加わった総勢約三百人という大掛かりなもので、御前通や今出川通・上七軒通などを行進し「安心安全のまち上京」を訴えた。



連歌奉納

菅公は「連歌の守護神」として崇敬され、北野天満宮では、鎌倉初期から御神前で「法楽」と称する連歌の会が開催されています。

室町時代には、北野連歌会所が設けられて、名立たる連歌の名人・宗祇が会所奉行を勤め、千句興行や万句興行も営まれ、天皇や将軍も一句を詠じています。

平成二十八年三月十三日
北野天満宮奉納梅ヶ枝連歌
賦何路連歌　於・北野天満宮
京都連歌の会　宗匠／鶴崎　裕雄
執筆／図子まり絵

初折　表

幾年を今に伝ふか紅和魂梅　宮司　橘重十九
唐の湊にあたたかき風　鶴崎裕雄
鳥帰る山おのづから整ひて　丸山景子
わずかに雨は軒を濡らしつ　藤原光代
奥庭の千草やあはれ深むらん　大村敦子
遠近ひびく砧打つ音　関本　稔
雲間より出でたる月の澄み渡り　中村和行
鏡を伏せて鹿笛をふく　服部満千子

初折　裏

かたむける二合半酒（こなからざけ）の酔ひここち　村尾幸子
友便りありすこやかと書く　小島喜久男
おもかげの浴衣の君はきらきらし　松本節子
消えずにもがな恋の片虹　図子まり絵
より添ひて思ひ高まる夏祭り　横山群平
何を願はむ見えぬ行く末　栗田純一
いにしへをしのびて猿の沢の池　光代
望む遠峰白雲渡る　幸子
なか空に冴えたる月のかがやきて　節子
雪丸げらのおしゃべりやまず　稔
子どもらの伸びを見まもる地主神　和行
鳥ものどかに飛びかひて過ぐ　喜久男
旅の途しばし休らふ花のかげ　敦子
掬すれば香のかすむ盃　満千子

名残折　表

宗右衛門町仲間と何を語りあふ　句上
思慕をかくせどさとられて居り　宮司　一句
幾日も逢はぬに噂さめやらず　裕雄　三句
浜の千鳥よ夫恋ふてなく　光代　四句
木枯に濡れにし袖の凍てつきて　敦子　三句
しづもる庵呉竹のよよ　満千子　三句
あらはれし鬼切丸のたぐひなき　節子　四句
眼をするどて剣見る女　稔　四句
黒髪の帯刀舎人ゆゆしくも　和行　四句
物語よむさみだれのころ　喜久男　三句
聖き火の台な忘れそ大とぼけ　群平　三句
国の境を月夜にたよる　敦子　四句
心せよ安達ヶ原は暮れやすき　満千子　三句
とぼその音もつらき秋風　景子　三句

名残折　裏

さらさらと筧の水もさゆらぎて　和行　三句
今日の野点を振り返るとき　裕雄　四句
初時雨あなたの関を越えぬるか　光代　四句
駒踏み分ける仙路はてなし　純一　四句
大鳥の鳴く音は遠く響みゐて　節子　三句
はらから集ひ飾る初雛　稔　四句
桜丸梅王丸や花競ふ　幸子　四句
さてものどけし歌垣の宴　まり絵　二句



◎責任役員

退任

中井　宗一　殿

中井宗一氏は、昭和五十五年に神社総代・氏子講社常任理事、平成八年に千百年大萬燈祭奉賛会常務理事、平成十四年六月に氏子講社長、九月に責任役員、平成十五年に北野天満宮講社副会長にご就任され、平成二十八年三月まで北野天満宮の御神徳宣揚及び護持運営に多大なるご尽力を賜りました。

ここに永年の御功労に対し謝意を表します。

現職

渡辺　孝史　殿
（平成十四年九月一日　就任）
塩尻　良市　殿
（平成十五年六月二十六日　就任）
渡邉　隆夫　殿
（平成二十三年三月二十九日　就任）
宮階　有二　殿
（平成二十七年三月二十六日　就任）
井狩　誠　殿
（平成二十八年三月三十日　就任）
小石原　満　殿
（平成二十八年三月三十日　就任）

◎天満宮講社役員

新任

副会長　田辺　親男　殿
（平成二十八年三月十五日　就任）

◎職員人事

採用　（四月一日付）
出仕　河合　善多郎（皇學館大學卒）
出仕　篠原　亮太郎（皇學館大學卒）

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十二月「祈り」

初詣感謝のまこと新たにも　福井県　武曽　豊美
　身のすこやかに心正して
保育士は牧師夫婦の一人っ子　大阪府　村島　麗門
　祈りの絵本今日も生み出す
脳梗塞癒えし夫は神の慈悲　岐阜県　波多野千寿子
　感謝の心で日毎祈りぬ
病得し孫の日日ひたすらに　愛知県　鈴木　幸子
　薬師如来に祈る合掌
あらたなる歳まのあたり祈りつつ　京都市　今井　輝子
　すがしき朝をみなともともに
高殿の明き大君国見して　東京都　白石　雅彦
　祈りたまふは民のさきはひ
亡き母の祈る姿を思ひ出し　京都市　塩小路光胤
　知らす手合はす北野の社
社寺の前通る道にて足止めて　愛知県　仁枝　尚子
「のんのんあん」と幼合掌

【評】一年でもっとも手をあわせることが多いのは年末年始ではないだろうか。人はなぜ祈りを捧げるのか。社寺の前で子供が手をあわせる。それを教える大人。こうして祈りの心は引きつがれていく。

一月「人」

人みなにふるさと恋ひてたしかなる　福井県　武曽　豊美
　代々祖々のいのちにふれたり
院庭の皇帝ダリア見上ぐ人　大阪府　村島　麗門
　日々のリハビリこなしつつ生く
万人の祈り交はる初日の出　京都市　若狭　静一
　希望はいつも今日に始まる
新しき年を迎へてすこやかを　愛知県　鈴木　幸子
　祈るにつゞく人人人
もまれあひ世のみだれともまじりあひ　京都市　今井　輝子
　うまれくるこそまこと人かと
久方の春の光にさそはれて　京都市　塩小路光胤
　花おとつれはなつかしき人

【評】歌会始の題でもある。この時代、あえて「人」を題にされたのには深い意味があると感じる。地球上に生を受けた尊い存在であるということ。そして、単に生きているだけではなく、「人」としてどう生きるべきか。新たな年に考えさせられる。

二月「宝」

宝とも誇りともがなわが里に　福井県　武曽　豊美
　伝はる民話孝行者の
姪なつみオーストラリア留学す　大阪府　村島　麗門
　宝の時よエアーズロック
文芸の賞状増すを楽しみに　岐阜県　波多野千寿子
　独り夜すがら宝稼げり
良き夢を見むと宝の船を敷く　京都市　塩小路光胤
　夜の静寂に雪は降りしく
こともなき日のつれづれを宝とぞ　京都市　朝比奈栄子
　嬉しむほどにこと多かりき
言の葉に寄するはなむけ宝なり　東京都　白石　雅彦
　金銀珊瑚とほく及ばず

【評】地域の民話、若さなど、時間を宝とする方が多かった。何を宝とするかは、人それぞれ。いにしえ人も同じ。万葉歌人の山上憶良は次のように詠んだ。銀も金も玉も何せむに　優れる宝子にしかめやも

三月「峰」

快晴の秀峰富士を仰ぎ見て　福井県　武曽　豊美
　競ふ駅伝女子の健気
峰を越え昔の人の歩む道　大阪府　村島　麗門
　機材を背負ひチームは進む
激動の昭和の御代を耐え抜いて　岐阜県　波多野千寿子
　今は雅の道秀峰目差す
大病の友を見舞ひてひとときの　京都市　若狭　静一
　かたらひ三十六峰のごと
白峰の霞の御簾に隠れたる　京都市　朝比奈栄子
　春の色にぞ衣替へんと
越中の望む峰々立山の　東京都　白石　雅彦
　輝く白雪剣の誉れ
吉野山四方の峰々薄紅の　長岡京市　智野利恵子
　花に偲ぶは遠き舞姫

【評】春の峰、峰の雲、峰のもみぢ葉と、春夏秋冬、峰は数々の歌に詠まれてきた。国土の四分の三が山地の日本において、身近にありながら、天にもっとも近い祈りの場でもある。

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天神さん 思い出写真館



写真には「昭和三年四月二十四日　東遊」とある。千二十五年半萬燈祭における「東遊」の奉納風景である。前にも記したが、千二十五年祭は、大正天皇の崩御によって一年遅れの昭和三年四月二十二日から五月十二日まで二十一日間にわたって斎行されている。

奉納場所は本殿前に設けられた舞台で、六人が優雅に東遊を舞っている。「その装束一切は、往昔以来東遊御献進の古例あるを以て、特に宮内省より貸与せられたるものなり」と、記録に残されている。

祭典を終えたばかりの宮司を始め神職や参列者が舞台を見つめている。東遊奉納に引き続き八乙女舞の奉納が行われている。

この後、御土居内に天幕を張って直会が行われているが「参列者三百九人にて、すこぶる盛況なり」と記されている。ちなみに、この日の天候は晴れ。



天満宮歴史の一齣

重要文化財「絹本著色舞楽図」（三）
――延年舞図――

京都大学名誉教授
藤井 譲治

「延年舞図」を、前々号・前号に引き続き、主として泉武夫氏の論考によりながら紹介していこう。延年舞図も、左と右に大きくわかれ、向かって左の上部には四人の童、左の下部に二人の童舞、右の上部に一人舞の舞楽、左の下に僧舞が描かれている。

左上のには老松、左下には満開の桜、右上には桜と幄舎（祭礼の際などに臨時に設ける布帛で覆った仮小屋）を描くが、老松や幄舎周辺には、銀泥輪郭による霞が描かれており、全体としては夜景である。

舞楽には仮面をつける舞と仮面をつけない童舞があるが、本図は僧舞を除き童舞である。左上の四人の童舞は、童髪に天冠をつけ、時花である桜を頭に指し、袍・襖襠（打ち掛け）・指貫（袴の一種）・糸鞋（いとくつ、括り紐のある靴）といった童装束をつけ、装束の色は高麗楽曲特有の青色系であり、左手に長い色棹を持っていることから、朝鮮系の舞楽「狛桙（こまぼこ）」であることが分かるという。

下方の二人舞は、装束は四人舞とほぼ同じだが、右手に桴（ばち）をもっていることから、高麗楽の一つ「納蘇利（なそり）」である。こうした童舞の描写は、院政期から鎌倉時代前半期の世界を反映したものといわれる。

右上の一人舞は、「陵王」で、右手に桴をもつが、装束は他とほぼ同じである。幄舎には伴奏者が、また舞の周囲には裹頭（僧侶が袈裟で頭から顔を包み、目だけ出した装い）姿の衆徒が描かれている。



写真１　舞楽図（延年舞図）



写真２　延年舞図（縮図）

画面右下には僧たちの舞とそれを取り巻く衆徒が描かれる。僧舞は美麗な扇を手にし、思い思いに舞っており、法会のあとの直会の雰囲気を漂わせる。この場面から本図が、「延年舞図」といわれるようになったとのではと推定されている。延年舞は、平安時代末から寺社での大法会のあと行われた遊宴の芸能をいう。

泉氏は、こうした描かれた場面・画題、さらに画面の構成等から、この舞楽図は、鎌倉時代半ばから後半にかけての作品であり、その内神楽図は、長久二年（一〇四一）二月二一日の後朱雀天皇の北野社行幸の際の神楽と東遊を復元的に、延年舞図は、承元二年（一二〇八）三月二一日の一切経会における舞楽と延年舞を描いたものとされている。

写真1は、舞楽図（延年舞図）であり、写真2は、明治八年（一八七五）に京都府に提出された「古文書宝物什器再取調書」に収められている本図の縮図である。

史跡御土居の 青もみじ

学問の神・驚きの 宝刀展







境内西側には、天正十九年（一五九一）豊臣秀吉公が洛中洛外の境界、また水防のため京都の四囲に築いた土塁「御土居」の一部が残り国の史跡に指定されています。

現在でも自然林が多く残り、四季に応じ様々な美しさを感じることができる御土居一帯には、およそ二百五十本ものもみじがあります。

新緑の時期には舞台から見下ろす青もみじの木々や紙屋川にかかる鶯橋から見上げる、透き通るような芽吹いたばかりの新緑が見る人々の心を癒します。

初夏の青もみじの清々しい美しさとともに、千有余年に亘る天神様の御神徳をお受け下さい。

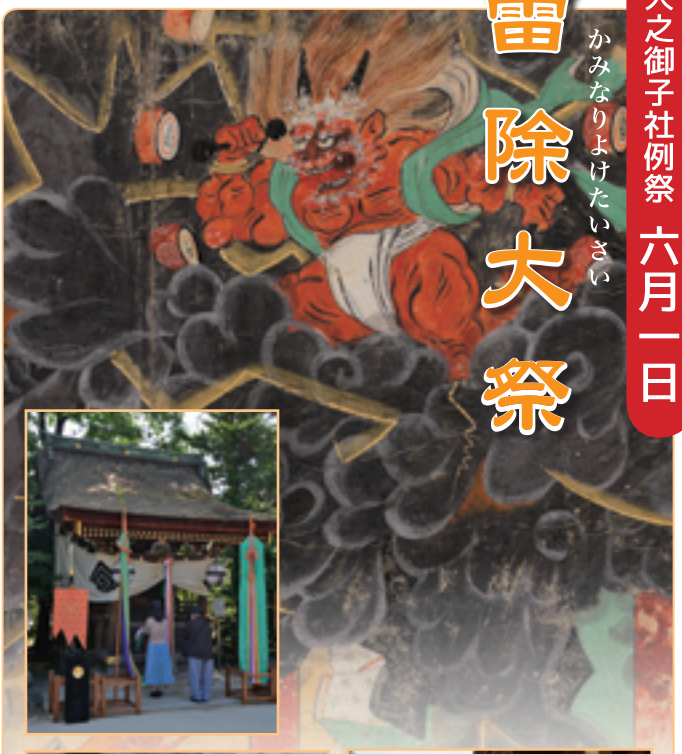
◎公開期間／
平成二十八年四月十六日～五月三十一日
◎入苑時間／午前九時～午後四時
◎入苑・入館料／一　般＝五〇〇円
中高生＝二五〇円
こども＝一五〇円
〈修学旅行生のみ＝一五〇円〉

天満宮
［第十号］
平成二十八年四月二十五日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／神原　孝至　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話　〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）　http://kitanotenmangu.or.jp/

火之御子社例祭　六月一日

雷除大祭

かみなりよけたいさい







●「北野の雷公（きたのらいこう）」と称えられる火雷神

農業・林業関係者に広く信仰され、近年では電気関係（電力会社等）、ゴルファーや釣り人の間でも信仰が広がっています。

●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門の午前五時より特別に授与致します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くは千体限定の授与でしたが、近年はこの日より三日間頒布します。

●演芸披露

絵馬所では、午前十時より午後三時まで京都産業大学落語研究会による落語・漫才等の演芸が催されます。

なごしのおおはらえしき

夏越の大祓式

どなたでも神事に参加できます。

六月三十日
午後四時斎行





●茅の輪をくぐって、無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。

茅の輪をくぐって、厄難を祓い落しましょう！

●人形・車形でお祓いしましょう

人形に氏名・年齢を記して三度息を吹きかけます。

それを身の代わりとして大祓に差し出してお祓いします。

また交通安全祈願として、車形もあわせて行いましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。



御縁日 境内ライトアップ

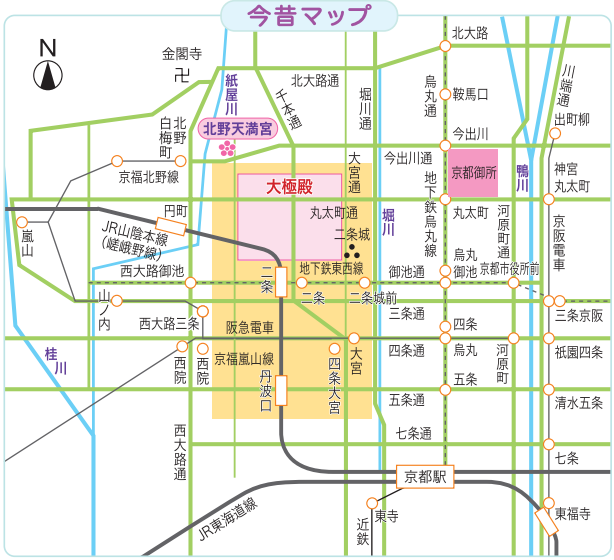


毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
  季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京（大内裏）
大極殿（室町時代迄の平安京）
京都御所（室町時代以降）

